

測定評価専門領域

大藏倫博（筑波大学）、萩裕美子（東海大学）、小林秀紹（札幌国際大学）
石原一成（福井県立大学）、林容市（法政大学）

1. あらまし

日本体育測定評価学会は、体育・スポーツの測定評価に関する学術的研究及び教育の向上と体育学研究の充実に寄与することを目的として2001年に設立された。2018年6月5日時点の会員数は285名である。

■学術誌（学会機関誌）

和文機関誌『体育測定評価研究』を毎年3月末に発行している。

英文機関誌『Human Performance Measurement』を発行。2018年度はVol. 15（2018年4～12月）とVol. 16（2019年1～3月）を発行する予定である。

■学会大会（年1回開催）

平成30年度は札幌市において第18回大会（平成31年3月2日）を開催する。研究発表した者の中から上位1割程度が「優秀発表」として表彰される。なお、日本体育学会大会における測定評価専門領域での発表も同様に表彰される。

■学会賞・奨励賞

「学会賞」は日本体育測定評価学会の機関紙に掲載された最優秀論文に授与される。「奨励賞」は優れた論文（著者が35歳未満）1編に授与される。

■研究助成

日本体育測定評価学会の会員歴を3年以上有する者を対象として、1件あたり10～30万円の研究助成が行われる。採択件数は年度により異なる。

■倫理審査

日本体育測定評価学会の会員が研究代表者である研究計画（ヒトを対象とする研究）について、申請があれば倫理審査をおこなうことができる。

2. 内外の研究動向

波多野（2009）によれば、本専門領域の名称である測定評価は1861年にヒッチコックがアーマスト大学で形態測定に注力したことがその端緒であるとされる。我が国では東京オリンピックが開催された1964年に文部省スポーツテストが制定・実施され、同年日本体育学会において測定評価専門分科会が発足した。当学問領域はエビデンスが重視される今日に至るまで体育学、スポーツ科学、健康科学の基礎を支えてきたと言える。2017年9月、日本体育学会において専門領域シンポジウム「トップアスリートの発掘・育成・強化への戦略的な取り組みとデータ分析」が開催された。また、2018年3月の日本体育測定評価学会では「子どもの身体を測る・知る・育む」と題してシンポジウムが行われた。この

ような多岐にわたる健康・スポーツに関するテーマについて、測定評価の確かな科学的手続きを議論の中心に、理論、基礎、応用および実践的研究が進められている。

3. 科学的知見の応用の状況

本専門領域では、学校体育や競技スポーツ、健康づくり、介護予防などの幅広い分野において、幼児から高齢者、アスリートや有疾患患者などを対象に多様な研究が実施されている。例えば、高齢者の自立期間延伸が重要な課題となっている本邦において、高齢者の下肢筋力を適切に評価することの重要性は疑う余地が無い。このことに関連して、本専門領域では、「高齢者の下肢筋力を簡便に評価する 30 秒椅子立ち上がりテスト（中谷ら、2002）」が報告されており、健康づくりや医療に関する様々な施設・機関において有効な評価指標として広く活用されている。このように、研究成果の普及（社会実装）が比較的容易にされ得ることが、本専門領域の特長の一つと言える。

4. 学校体育や大学体育に活かすべき最新知見

大石ら（2017）は中学生を対象にして、運動有能感の評価により体力差を示すことができることを明らかにした。本評価法は体力差を考慮に入れた授業を展開する際のスクリーニングとして有効である。中野ら（2016）は児童を対象にして、運動の楽しさに関する調査を行い、高学年になるほど「とても楽しい」と答える割合が低下し、先生や年上の人に関与すると楽しさが低下するという結果を得た。成長とともに人との関わり方が運動の楽しさに影響を及ぼすことが示唆される。女子を対象とした研究では、骨密度と体力レベルの自覚度との関係性が示された（稲島ら、2017）一方で、金ら（2017）は過剰な運動やダイエットが骨量獲得に負の側面を示すことを明らかにした。女子に対する、運動機会の提供、及びダイエット経験をふまえた適切な指導の必要性が示された。

5. 若手研究者へのメッセージ

本専門領域は身体活動に関わる身体運動現象や体力の測定をその独自性としており、様々な測定や統計処理によって体育・スポーツ科学を支えるだけでなく、多様なニーズに基づく研究分野に貢献できる可能性が広がっている。若手研究者には、研究を進めるにあたって“自分が興味・関心を持っている研究が今後どの様に社会の役に立つのか？”を十分に意識し、本領域の研究を推進していく力となって欲しい。その際、出村（2007）、出村ら（2014）の著書が参考になるであろう。“測定評価”が若手研究者の研究を深化させ、優れた研究成果が実践～応用へと発展的に繋がっていくことを期待している。

6. 引用文献

- 1) 波多野義郎（2009）米国における体育測定評価学略史(1861-1964)と日本の初期測評学発達に関する一考察. 日本体育測定評価研究, 9:1-11.
- 2) 出村慎一（2007）健康・スポーツ科学のための研究方法. 杏林書院：東京.
- 3) 出村慎一, 山下秋二, 佐藤 進（2014）健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院：東京.

（2018年7月23日執筆）